大阪国税局長賞

ひとり親家族と税による支援

三田市立ゆりのき台中学校３年
宮山　恋花

私は幼いころに母親と死別し、姉や弟とともに父子家庭で育ってきました。その環境の中で、私が不自由や我慢を強いられることなく生活してこれたのは、ひとり親を支援するための税制度のおかげであると知りました。

私の父は過去に寡夫控除を受けていました。そして、寡夫控除が廃止された現在はひとり親控除を受けています。寡夫控除とひとり親控除を調べてみると、結婚歴の有無という点で大きく異なっているとわかりました。寡夫控除では結婚歴が必要であり、未婚のまま父親になってしまった人は控除を受けられない状況でした。しかし、ひとり親控除は未婚の人でも受けられるため、より多くの人々を支援できるようになったと知りました。

男性を対象とした寡夫控除が廃止された一方で、女性を対象とする寡婦控除が存続していることも知りました。その理由として、男女の賃金格差が考えられると思いました。女性に比べ、男性のほうが正社員として雇われています。そのため、一般的にシングルマザーの方が貧困に陥りやすいとされています。また、女性の方が未婚のまま親になるケースが多いと思います。これらのことから、寡婦控除が存続しているのだと思いました。

これらのひとり親を支援する制度があるにもかかわらず、日本のひとり親世帯の貧困率は高いと知りました。この問題を解決するためには、育児などの支援制度を充実させる必要があると思いました。また、国民全員がお互いに協力していくことの必要性を改めて感じました。

これまで私は、このような税制度のおかげで自らの生活が支えられているという事実を知りませんでした。私が毎日食事をし、学校に通うことができているのは当たり前のことではなく、税制度のおかげであると感じました。そのおかげで、将来やりたいことの進路に向けて勉強することができています。税金の控除だけでなく、現在、社会保障制度などによって多くの税金を使わせてもらっています。中学生の私にとって一番身近な税である消費税を納めていますが、今までは払わなければいけないもののように考えていました。

しかし、税について調べているうちに考えが変わりました。私は多くの人が働いて納めてくれた税に支えられて生きており、将来、私が働いて支払う税が他の人を支えることになるのだと感じました。今、私が支えてもらっている分、将来誰かに恩返しができればいいなと思いました。

そのために今私にできることは、進路実現に向けて一生懸命努力することだと考えます。

だから、日々生活できることに感謝しながら、将来に向けて頑張りたいと思いました。